

# グリーンサークル27号

クローズアップ 峰岸久雄  
活動団体クローズアップ どんぐり山を守る会/亀ヶ谷緑地班  
多摩市みどりのかわら版 米山由起子



ヤマユリ

～クローズアップ～

## 魅力的な落合・鶴牧のみどり ランドスケープアーキテクト 峰岸 久雄

### 1. 多摩市のみどり

多摩市はみどりの多い市です。1人当たりの公園面積は13.6㎡で、多摩地域26市の中で最も多く、都民一人当たりの公園面積5.7㎡の2.3倍以上あります。緑被率も緑視



峰岸久雄氏

率も30%を超えて、緑の額縁のある景色が市内のどこでも見られるみどりの街です。多摩ニュータウン事業で創られた公園が多く、質の面でも充実しているといえます。そのみどりの中で「落合・鶴牧」地域

のみどりは特異的で魅力的なみどりといえます。30年ほど前にランドスケープコンサルタントとして、この地域の多くの公園やみどりの設計に関わりましたので、その魅力の概要をご案内します。

### 2. 落合・鶴牧のみどり

落合・鶴牧地域は都市の骨格をオープンスペース(公園等)が創っている、世界でも稀な地域です。その概要につ



富士見通りのサクラ

いて紹介します。宝野公園、奈良原公園、鶴牧東公園の3つの近隣公園が連続した緑のリングを構成しています。その外側を歩行者専用道路が巡らされています。鶴牧東公園の西側には通常の近隣公園の2.5倍以上の面積の鶴牧西公園が連続しています。宝野公園から北側に延びるセンタープロムナードで多摩市の総合公園である多摩中央公園と結ばれ、この地域のみどりの骨格となる基幹空間を構成しています。

宝野公園と奈良原公園には、地域の天神様青木葉天満宮と霊峰富士を結ぶ幅40m、延長約500mの軸線「富士見通り」が創られ、両側に2列づつ4列に約300本のサクラが植えられ、多摩市の花見の名所の一つになっています。天満宮側はおしゃれな四阿が、富士山側には彫刻の置かれる予定であった円形の石積みの台座が創られています。

鶴牧東公園は通称「ガリバー山」と呼ばれる高さ15mの山が地下鉄残土等で、わが街を俯瞰出来る場所として創られています。元日はご来光を見る人々で頂上は大変賑わっています。近年周辺に高層マンションが建設され、眺望風景の魅力が失われつつあります。山の南側すそ野には野

外ステージがあり、山の斜面を客席に定期的に野外コンサートが行われています。東側のすそ野には、数種の鳥のブロンズ像の間から水が滝のように落ちてくる、楽しい徒渉池が創られ、夏場は子ども達の人気のスポットになっています。

鶴牧西公園は、開発以前から残る雑木林と竹林のある自然公園的な公園です。水田や果樹園、囲炉裏や竈のある農家風休憩舎等農業公園的な要素も特徴です。市民が関わられる多様なプログラムが計画当初作られましたが、残念なことに実施されていません。それらのプログラムの一部がグリーンライブセンターの「緑の探検隊」で実践されています。

体育館規模の土間空間「みどりの家」や厨房機能を備えた二の土間も都市公園では珍しい施設です。天候に左右されないで多様なプログラムが実施出来る様に創られた施設です。活用方法が市民に周知されていないため宝の持ち腐れ状態になっているのが残念です。みどりの家に隣接する芝生のみどりの広場があります。芝生の下は見えませんが雨水を貯める地下ダムとなっていて、水田の水源の一部となっています。20年ほど前になりますが、このみどりの広場で「ガーデンウエディング」を、みどりの家で披露宴を行ったカップルが1組あり、ガーデンウエディングのパイオニアでした。



野外ステージ

### 3. 修復緑化

この地域の道路側造成法面の多くが現在、森状態になっています。これらの森は開発前の多摩の里山の森、雑木林に修復していく目的で、斜溝法という苗木緑化工法で創られたものです。約25年を経て現在のような樹林となったものです。この地域にあるどんぐり山の斜面も多様な緑化の工法を試して、苗木から創られた樹林です。植栽樹種の選定や配置等の工夫が試された先駆的な修復緑化でした。これらの修復された樹林の今後の姿と管理の方法、管理の人材など課題も多くありそうです。

魅力ある落合・鶴牧の緑について、計画・設計に関わったランドスケープアーキテクトの1人として、今後の展開についても共に考えて行きたいと思っています。

～活動団体クローズアップ～ **どんぐり山を守る会クラフト講座**  
**どんぐり山を守る会 細川 正男**

どんぐり山を守る会は、現在約15名位の老若男女で第1、第3日曜日に活動しています。

内容は主に草刈りをしたり、木を切ったり、どんぐり山の生態系を守るために活動しています。その際に伐採した大切なコナラ・クヌギ・竹などを有効活用できないだろうかと考えました。シラカシのベンチを作成し、その後もホオヤクスをコケシにしたり、イチョウでまな板を作成したりケヤキやサクラ、トチノキで木製のバターナイフやジャムナイフを作りました。竹は木材よりカビが発生しやすいので材としての管理が大変ですが、竹製の調理用のヘラや靴ベラは手触りも良く、木製も竹製もそれぞれ味わい深い作品になりました。

シラカシのベンチは公園隣のバス停でバスを待つ間に休めるよう置いてあります。坂道で傾斜があるバス停なので、脚はその傾斜に合わせた角度と長さにカットしてあります。また、竹の節を利用してコーヒーカップやぐい飲みなども作ってみたところ、思いがけず立派な作品ができたので、近隣の方々に差し上げると非常に喜ばれました。

高価な道具も使わずノコギリ・ナイフ・木工用ヤスリ・紙ヤスリ等といった身近な道具で簡単に出来るので、ぜひいろいろな方に作り方を教えて、身近な緑に関心を持ってもらおうと同時に、もっとどんぐり山を守る会の活動を知ってもらいたいと思い、グリーンライブセンターのグリーンボランティア連絡会の方に相談し講座を開催する事になりました。木製のナイフ作りから始まった雑木林のクラフト講座も2017年で3年目を迎え、今後はベンチづくりの講座にもチャレンジしたい気持ちです。

今の世の中は、お金さえあれば何でも手に入れることが出来ますが、手作りの良さをもっと知ってもらいたいと思います。世界に一つだけの作品になると思いますよ。

どんぐり山を守る会  
 活動日：第1、第3日曜日  
 お問い合わせ  
 多摩市立グリーンライブセンター  
 電話 042-375-8716



竹を切る



竹のカップ試作



竹に印をつける



脚に枝を利用した椅子



2016年度雑木林活用講座 竹べらづくり



2017年度雑木林活用講座 多摩の竹でマイカップづくり



～活動団体クローズアップ～

## 「朴葉寿司」講座 亀ヶ谷緑地班 班長 名黒 二郎

2017年6月18日に今年で3回目となる朴葉寿司づくり講座が開催されました。昨年より2週間早い開催で、ホオの葉も若葉が多く茎が幾分柔らかいようです。

今の時期、緑地に入り見上げると木々の葉は濃く繁り、春の地で咲いていた花々は姿を消し、群生するハルジオンが勢いを増した草の中で一段と背伸びをしています。

そのような亀ヶ谷緑地を、朴葉寿司づくり講座で訪れる受講生が気持ちよく歩けるように、事前に会員で通路の草を刈ったり、階段を整備しました。また葉を採取する場所を、講座後に緑地が開けて気分が開放的になるのを願って、ホオノキが4、5本立つ見通しの良い尾根に変えることにしました。

講座当日、グリーンライブセンターから亀ヶ谷緑地に移動し、ホオの葉の採取場所に到着すると、みんな楽しそうにちょうど良い大きさの葉を品定めしながら集めていました。採取以外には緑地の紹介として、今年の2月に伐木したホオノキから萌芽更新した頼もしいひこばえを観察したり、ササの中に隠れているタマノカンアオイを紹介するなどしてグリーンライブセンターへ戻りました。その途中でも、野草の紹介をしました。

グリーンライブセンターへ戻り、採取したホオの葉を洗いや拭いて、いよいよ朴葉寿司作づくり。

メインイベントはとても賑やかで、楽しい雰囲気でした。

手順を考えて包む子、いきなり包み始めて「どうやるんですか〜」と助けを求めてくる子。大盛りあり、小盛りあり・・・子ども達は自分で採った葉にお寿司を包むのは新鮮な体験のようで、たとえばみ出してしまっても楽しんでいる様子が微笑ましかったです。

我々も終了後に講師、スタッフで朴葉寿司を御馳走になり今年も美味しくいただいて、食につながる催しは幸せなひと時だと感じました。

講座に参加された方からグリーンライブセンターへ「講座も大変良かったし緑地も気持ち良かった」といったお言葉を頂戴したそうです。天候にも恵まれ順調に運んだこともそうですが、日々のグリーンボランティア活動の成果もあるのだと思うと活動の励みになりました。

年々朴葉寿司の味がバージョンアップしているのので来年も出来たらと願っています。

亀ヶ谷緑地班は春はタケノコ掘りやシイタケの駒打ち、初夏は朴葉寿司づくり、秋は草刈りや伐木、冬は多摩エコフェスタの展示や工作・・・班の中でも四季のイベントに朴葉寿司が定番となってきました。これからも四季を楽しみながら活動したいと思います。

亀ヶ谷緑地班  
活動日：第1、第3土曜日  
お問い合わせ  
多摩市立グリーンライブセンター 電話 042-375-8716



朴葉採集



朴葉寿司づくり



朴葉寿司



ホオの萌芽



朴葉寿司を食す

多摩市みどりのかわら版

みどりの拠点づくりに向けて  
公園緑地課 米山 由起子

グリーンライブセンターは、入庁時に訪れてから、素敵な癒しの空間だなあと印象に残っている場所でしたので、こうして仕事でかかわることができて嬉しく思います。

5月のガーデンシティ多摩センターこどもまつりでは、グリーンボランティアである一本杉公園みどりの会と多摩大

学梅澤ゼミが竹ぽっくりや竹馬などの竹細工、恵泉女学園大学が農業の感謝祭で踊るメイポールダンスやスタンプラリーなどといった催し物が開催され、多くの市民の方で盛り上がりました。



こどもまつり

また、春と秋にグリーンライブセンターで開催している花壇講習会は、民間花壇を管理していただいている団地管理組合、PTA などの方々の熱気にあふれ、毎回ご好評を頂いております。園芸にあまり詳しくない方でも、春の講座は、発芽のさせ方や水のやり方などの管理の方法を学んだり、実際にお配りしている種を植える実習を行っています。秋の講座は、すこし園芸上級者向けに、花壇全体の植栽の方法や、接木、こぼれ種の扱い方など、幅広く園芸を学ぶ講座となっています。手前味噌ですが、このように素晴らしい講座を実施できるのは、恵泉女学園大学の先生、職員の方や、グリーンサポーターの方々のご協力のおかげと思っています。

また、東京緑化推進委員会が取り組んでいる「緑の募金」には、多摩市内の自治会や管理組合の方々へ、毎年

「春の緑化月間」にあわせて、募金のご協力をお願いをしています。この募金は、森林の整備や、ボランティア団体等が実施する森林整備活動への助成、小学校等への緑化助成、募金協力団体が実施する緑化推進事業などへの助成に使われています。



種まき講習会

この助成のひとつである、花苗供給事業にも取り組んでおり、小学校の緑化や、公園、緑化協定地などにおいて、花やみどり豊かな多摩市の街づくり

を推進しています。

公園緑地課は、2年目の若輩者ですが、グリーンボランティアの皆様とともに、多摩市のみどりについての知識を深めていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

編集後記

草木の青さが目にまぶしいこの頃。新たな季節を楽しむのは人間だけではないようで、公園や雑木林を歩いていると色々な昆虫と出会えます。樹木が好きだったり、クズやエゴが好きだったり・・・昆虫にもお気に入りのスポットがあります。皆さんもお気に入りのスポットを楽しんでください。(高澤 愛)



タマシ



ルリボシカミキ



オジロアシナガゾウムシ



ナツアカネ



エゴツルクビオトシブミ

表紙の絵

「ヤマユリ」(ユリ科)

絵・内城 葉子

大きな花のわりに茎が細いので垂れ下がって咲いているのをよく見かけます。

山ではイノシシに大分食べられてしまったとか・・・

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など  
<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信 グリーンサークル27号

発行日:2017年7月15日

編集・発行責任:多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tgcl/>